しらかわの身近な文化財

第二十三話 山と地域の歴史―建鉾山

古来より、山は信仰の対象として地域の人々によって大切に守られてきました。表郷の高木・三森地区にまたがる建鉾山は、山裾が広がる円錐形の山です（写真1）。このような形の山は「神奈備型」と呼ばれ、神聖な山として信仰されていました。

建鉾山の山麓には昭和30年代の発掘調査によって、今から1500～1600年前の古墳時代の石製模造品が多数出土しました。石製模造品は、剣や鏡、勾玉（いわゆる三種の神器）や農具である斧や鎌などを型取ったもので、祭祀に使われたと考えられています（写真2）。石製模造品が出土した場所から山頂付近を見上げると、複数の巨岩が見えます。これらの巨岩は、神様が降りる場所（磐座）や、御神体と考えられていたことから、巨岩が見える地で祭祀を行ったと考えられます。

また、山頂には建鉾石といわれる岩があります。伝説では、日本武尊が東征を行った際に、山頂に鉾を立てて、神様を祀ったといわれています。

建鉾山は、都々古別神社（表郷三森）の奥院として、馬場都々古別神社（棚倉町）から御神幸と称する神事行列が明治16年（1883）まで、行われていたと伝わっています。

このような事例から、建鉾山が地域の行事や信仰・歴史の舞台となった場所であることをうかがい知ることができます。

問文化財課☎㉗2310

▲写真1　建鉾山祭祀遺跡

▲写真2　建鉾山祭祀遺跡出土石製模造品

新生 白河実業 Vol.12

問白河実業高校☎㉔1176

学習成果研究発表会

2月1日、1年間のまとめとして、本校舎と塙校舎の生徒が一緒に研究発表会を行いました。

各科で活躍した本校生の紹介とその研究成果を発表しました。

▲学習成果研究発表会

▲自作ロボットの実演

▲塙校舎の模型

旅立ち

私たち“新生”白河実業高校一期生は、3月1日に卒業を迎えました。

▲県内でも珍しい、本校舎中庭の日本庭園にて

地域の皆さまへ

1年間をとおして、本校の教育活動を紹介してきました。「SDGs×ものづくり」を掲げ、これからも地域に根ざし、そして地域に愛される白河実業高校を目指してまいります。今後もご支援、よろしくお願いします。